

2017年7月26日

アフラック

株式会社日立製作所

## アフラックと日立が、がんの早期発見・早期治療社会をめざした協創を開始

アフラック(日本における代表者・社長:古出 眞敏)と株式会社日立製作所(執行役社長兼 CEO:東原 敏昭/以下、日立)は、このたび、がんの早期発見・早期治療社会の構築に向けた協創を開始します。

具体的には、両社で、日立が有する尿中代謝物によるがんの識別技術<sup>\*1</sup>の活用方法、およびがんの早期発見・早期治療を促進する新しい保険商品・サービスの創出に向けた検討を行うことで、より健康で豊かな社会への貢献をめざします。

現在、がんは日本における死因の第1位<sup>\*2</sup>で、生涯のうちに約2人に1人が罹患する<sup>\*3</sup>と推計されています。早期発見での治療ほど治癒する可能性が高いことから、厚生労働省の「がん対策推進基本計画<sup>\*4</sup>」の施策では、積極的ながん検診の受診が促されています。一方、日本のがん検診の受診率は約30%から50%<sup>\*5</sup>と欧米諸国と比較すると低い状況にあり、内閣府の調査<sup>\*6</sup>によると、その理由として、「受ける時間がない」「検査に伴う苦痛に不安がある」といった声があげられています。

アフラックは、日本初のがん保険を発売した保険会社として、これまで多くのがんと闘う方々を応援してきました。小児がんなどの難病と闘う子どもたちとそご家族を支えるために建てられた「アフラックペアレンツハウス」や、がんの正しい理解の促進とがん検診の受診率向上を目的とした「がんに関する啓発活動」を全国の自治体と連携して行うなど、長年がんとともに歩んできたアフラックならではの強みを活かし、さまざまなサポートを展開してきました。

日立は、尿中代謝物の解析によりがんを早期発見する技術の研究にいち早く取り組み、誰もが簡便にがん検査を受けることができる技術の確立をめざしています。

今回、両社は、日本最大のがん保険契約件数を有するアフラックのがんに関する豊富なデータや知見と、日立が研究を進める尿中代謝物によるがん患者の識別技術や日立独自のサービスデザイン手法である「NEXPERIENCE(ネクスペリエンス)<sup>\*7</sup>」、アナリティクス技術などの先端ITを組み合わせ、がんの早期発見・早期治療社会の構築に向けた協創を開始します。具体的な取り組み内容は、以下の通りです。

### 1. 尿中代謝物によるがんの識別技術の向上に向けた検討

日立は、新たな解析技術を導入するなど、解析フローの安定性や解析技術の向上に向けて、研究開発を強化しており、今後、医療機関との共同研究のもと、まずは乳がんを対象として、尿によるがんの識別技術の向上に向けた研究開発を進めます。

今回の協創では、識別結果の可視化方法や、乳がんのほか、今後研究するがんの種類を選定などを共に検討します。

## 2. がんの早期発見・早期治療社会の構築に向けたがんの識別技術の活用方法を検討

がんの早期発見・早期治療社会の構築に向け、尿中代謝物解析によるがんの識別技術の最適な活用方法を検討します。例えば、がん検診の受診を促すための、がんの識別技術を活用したプレスクリーニング検査方法やその最適な提供スキーム、プレスクリーニング検査後のサポート内容などを検討します。

なお、提供スキームの検討には、日立独自のサービスデザイン手法である「NEXPERIENCE(ネクスペリエンス)」を活用します。

## 3. 新しい保険商品・サービスの創出に向けた検討

将来的には、がん検診の受診を促すためのプレスクリーニング検査の普及およびプレスクリーニング検査後の健診センターなどへの連携、医療機関でのがん治療に応じた保険金の給付、治療後の定期的なプレスクリーニング検査の提供など、がんの早期発見から治療費の保障、治療後のアフターケアまでのトータルサポートを実現する新しい保険商品・サービスの創出に向け、検討を進めていきます。

両社は、今回の協創を通して、人々の健康意識を高め医療機関でのがん検診の受診率向上をめざします。

アフラックは、創業 50 周年を 2024 年に迎えるにあたり、めざすべき将来像を「Aflac VISION2024」として掲げ、成長の強化・イノベーション創出に向けた取り組みを進めています。今後も、他社と積極的に連携したエコシステムの実現によるイノベーション創出をめざします。

日立は、協創で得た知見を蓄積し、健康・医療について先進的な取り組みを継続するとともに、さまざまなパートナーとの協創を通じて、革新的な IT やサービスの開発・提供を推進していきます。

- \*1 日立製作所 2016 年 6 月 14 日ニュースリリース 尿中代謝物の網羅的解析により、健常者、乳がん患者および大腸がん患者の尿検体の識別に成功(<http://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2016/06/0614a.html>)  
本研究は国立研究法人日本医療研究開発機構(AMED)の医療分野研究成果展開事業、産学連携医療イノベーション創出プログラムの支援によって実施されたものです。
- \*2 厚生労働省「平成 28 年(2016 年)人口動態統計の年間推計 (2016 年 12 月)」
- \*3 国立がん研究センター「最新がん統計(2016 年 8 月)」
- \*4 厚生労働省(2012 年 6 月)
- \*5 厚生労働省「平成 28 年 国民生活基礎調査」性別およびがんの種類ごとにみたがん検診の受診状況のこと。
- \*6 内閣府「がん対策に関する世論調査(平成 28 年 11 月)」
- \*7 日立製作所 2015 年 10 月 15 日ニュースリリース 社会イノベーション事業の加速に向けて、お客さまの課題をともに検討する顧客協創方法論「NEXPERIENCE」を構築(<http://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2015/10/1015.html>)

### ■本件に関するお問い合わせ先

株式会社日立製作所 金融ビジネスユニット 金融システム営業統括本部 [担当:高島、小清水]

〒100-8220 東京都千代田区丸の内一丁目 6 番 1 号

お問い合わせフォーム:<http://www.hitachi.co.jp/finance-inq/>

以上